

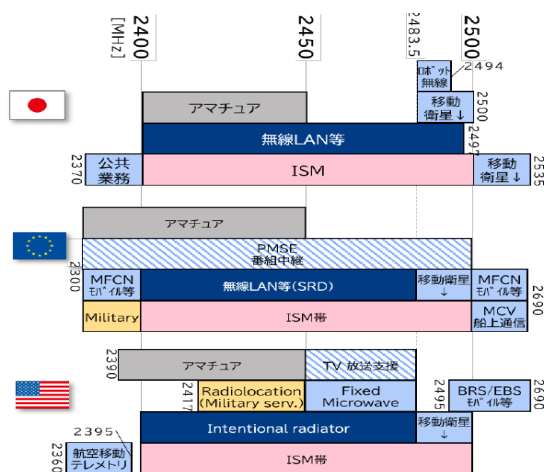
検討の背景

令和4年5月27日に開催された規制改革推進会議で「規制改革に関する答申」が決定され、その答申において、「総務省は、令和4年3月に立ち上げた「無線LAN等の欧米基準試験データの活用の在り方に関する検討会」において、日本と欧米における認証に必要な技術基準、試験項目、測定方法等の差異を特定し、欧米基準の試験データの活用等による認証の効率化について検討を行う。」と具体的な実施事項が記載された。

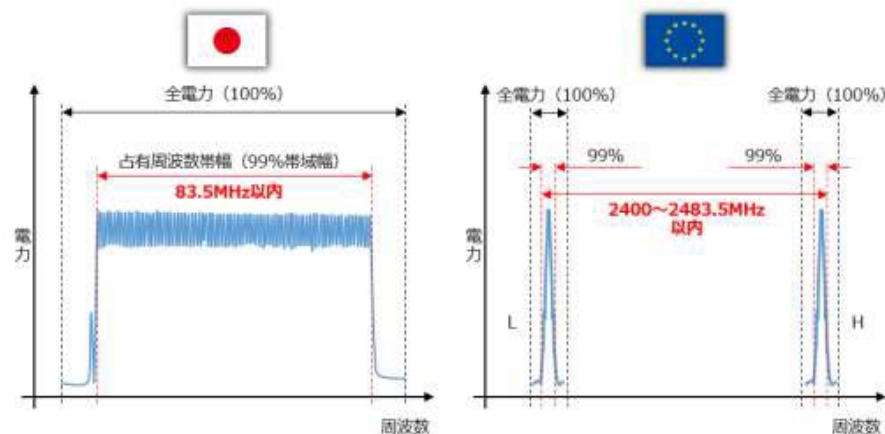
総務省では同答申にしたがい、試験項目や測定方法等の差異等については前出の検討会で、技術基準の見直しに関しては情報通信審議会情報通信技術分科会の下にアドホックグループを設置して議論を進め、全体を取りまとめた結果を令和5年3月27日に検討会報告書として公表した。

認証項目等の比較調査

我が国の基準認証制度における2.4GHz帯無線LAN等（無線LAN及びBluetooth）の認証手続きにおいて、無線設備規則で定める技術基準への適合性を示す試験等の代替手段として、欧州（CE）又は米国（FCC）の認証取得を目的として実施された試験データ等の活用可能性について調査を行った。



日欧米での周波数利用状況の比較



占有周波数帯幅の定義の比較 (Bluetooth Classicの例)

技術基準の妥当性の検証

日欧米の無線設備に係る法体系、認証制度、周波数の使用状況等を比較した上で、技術基準と試験方法の検証を行った。

2.4GHz帯無線LAN等の技術基準及び試験方法の見直し

		各項目の概要	技術基準	試験方法
①周波数	(1)割当周波数	無線局に割り当てられた周波数帯の中心の周波数をいう。	必要	試験レポート等の活用可能を明確化
	(2)周波数の許容偏差	割当周波数からの許容することが出来る最大の偏差をいう。	必要	
	(3)占有周波数帯幅の許容値	輻射される平均電力が全平均電力の99%に等しい周波数幅をいう。	必要	欧米基準試験データの活用可能を明確化
	(4)拡散帯域幅	全電力の90%を占める帯域幅をいう。	削除可能	
	(5)拡散率	拡散帯域幅を変調信号の送信速度に等しい周波数で除した値をいう。	削除可能	
②スプリアス	不要発射の強度の許容値	必要周波数帯外における電波の発射であって、そのレベルを低減できるものをいう。	必要	－（換算困難）※
③出力	(1)空中線電力	アンテナに入力される電力をいう。	必要	欧米基準試験データの活用可能を明確化
	(2)空中線電力の許容偏差	指定された空中線電力からの許容することが出来る最大の偏差をいう。	上限：必要 下限：削除可能	
④周波数ホッピング	周波数滞留時間	特定の周波数において電波を発射し続ける時間をいう。	必要	試験レポート等の活用可能を明確化
⑤送信空中線	(1)空中線の絶対利得	入力された電力に対する出力の大きさ（電波の放射効率）をいう。	必要（見直しあり）	メーカー仕様書等の活用可能を明確化
	(2)水平面の主輻射の角度幅	最大輻射の方向における輻射電力との差が最大3デシベルである全角度をいう。	必要	メーカー仕様書等の活用可能を明確化
⑥受信機	副次的に発する電波等の限度	受信状態において空中線から発射される電波の強度をいう。	必要	－（換算困難）※
⑦混信防止機能等	(1)混信防止機能	他の無線システムが発射する電波を検知した場合に、他のチャンネルへ切り替える機能をいう。	必要	試験レポート等の活用可能を明確化
	(2)キャリアセンス	同一システムにおいて、他の無線局が同一チャンネルを使用している場合に、他にチャンネルへ切り替える機能をいう。	必要	試験方法を見直し
⑧信号の伝送	(1)通信方式	同時に送信を行うことができる者（片方向又は双方向）及びその数（単数又は複数）の別をいう。	削除可能	
	(2)変調方式	データの伝送に最適な電気信号に変換する方式をいう。	削除可能	